

## いばらきの花振興協議会 (茨城県)

協議会構成団体： 茨城県花き園芸協会、茨城県農林水産部産地振興課、  
 全国農業協同組合連合会茨城県本部園芸部、公益社団法人茨城県農林振  
 興公社、一般社団法人JFTD花キューピット茨城支部、公益社団法人日本  
 フラワーデザイナー協会茨城県支部、茨城県花き卸売市場協会 他

## 戦略品目

切り花：トルコギキョウ  
 切り枝：ハナモモ、ヤナギ、ミズキ  
 鉢花・花壇苗：パンジー、ビオラ



### < 取組内容 >

### < 取組の成果 >

#### 1 生産供給体制の強化

トルコギキョウの生産性向上のための環境制御生産技術及び赤色・遠赤色LED電照による秋冬出荷作型の品質向上効果の実証試験

- ①プロファイnderを用いて、CO<sub>2</sub>施用または日没後昇温処理の効果を実証する。
- ②赤色LED及び遠赤色LED照射による秋冬出荷作型の品質向上効果を実証する。

- ・ プロファイnderを使った環境測定により、環境制御技術の効果を分析した結果、日没後昇温処理では慣行と同等の品質が得られ、CO<sub>2</sub>施用処理では慣行より高い品質が得られることが明らかとなった。
- ・ 遠赤色LED (波長730~740nm) による日没後3時間電照処理により、切花長が長くなり売上げが向上する可能性が示唆された。



プロファイnderを使った環境測定

#### 3 需要の拡大

- ・ 第五回全国高校生花いけバトル茨城大会の開催による花いけ体験及び県産花きPR
- ・ 保育園や幼稚園の園児、小学校の児童、中学校や高校の生徒を対象とした花育体験教室の開催
- ・ フラワーバレンタインの開催による消費喚起及び消費動向調査の実施
- ・ 県内商業施設での県産花き展示会の開催による県産花きPR

- ・ 県内の高等学校より9校21チーム42名の高校生が参加した。
- ・ 県内で13回、延べ367名を対象に花いけ体験教室を実施した結果、体験者の22%が体験後に花きの購入割合が増加したと回答した。
- ・ 消費動向調査の結果、来場者の9割近くが女性であり、花きの利用目的は自宅用が66%、送り先は家族向けが66%で最も高かった (回答者163名)。
- ・ 県内商業施設において①切り枝、②トルコギキョウ、③ハナモモ・鉢花の展示会を開催した。



消費者人気No.1のアレンジメント



ハナモモ・鉢花の展示会

### < 今後の取組予定 >

- ・ 環境測定を継続して実施し、環境制御技術に係るコストと利益の分析を行い、トルコギキョウ生産者の経営向上を図る。
- ・ 遠赤色LEDを使った日没後3時間電照処理により花径がやや小さくなる傾向が見られたため、品種ごとの適応性について検証し、技術の普及を図る。
- ・ 県内の戦略品目を中心とした消費プロモーション活動を継続して実施し、県産花きの認知度向上及び消費拡大を図る。

## 栃木県花き振興協議会（栃木県）

協議会構成団体：一般社団法人とちぎ農産物マーケティング協会、一般社団法人とちぎ農産物マーケティング協会花き部会、全国農業協同組合連合会栃木県本部園芸部、栃木県生花商協同組合、株式会社宇都宮花き、とちぎ花センター、栃木県農政部

### 戦略品目

切り花：バラ



### < 取組内容 >

#### 1 生産供給体制の強化

- バラにおける冬季期間中のLED照射(午前4時～午後4時)を実証し、収量と品質の向上効果について調査した。

- 12時間のLED照射により、出荷本数が3倍に増加した。
- 粗収益からLED照射に係る経費を引いた金額(1か月あたり)は、LED照射ありの場合、LED照射なしの場合と比較して10aあたり約100万円多かった。

粗収益－LED照射に係る経費（1か月あたり）

LED照射あり	205.2万円/10a	] 差額：106.3万円/10a
LED照射なし	98.9万円/10a	



LED電照中の実証ほ

#### 3 需要の拡大

- 未就学児や小中学生、農業高校生、福祉施設の利用者や職員を対象に、県産花きを用いた寄せ植えやフラワーアレンジメント体験等を行い、花きと触れ合う機会を提供することで、将来にわたる新規需要の創出を目指した。

- 計7,040名の子供たちが花の寄せ植えやフラワーアレンジメント作り、生け花、花束作り等を行った。
- 参加した子供たちの保護者へのアンケートによると、18%の家庭で体験後の花き購入回数又は金額が増加した。
- 計1,896名の福祉施設利用者及び職員が花の寄せ植え等を行った。
- 参加した福祉施設職員へのアンケートでは、97%が今後も参加したいと回答した。



フラワーアレンジメント体験

- とちぎ花センター内の3ブースを県産花きを用いて装飾し、来場者に投票を呼びかけるコンテストを実施することで、新たな需要の創出を図った。

- 約4,000人が来場し、フラワーアレンジメントやハンギングバスケット等で彩られた会場を楽しんだ。
- 投票では、フラワーアレンジメントと鉢花により豪華な空間を演出したブースが最も多くの人気を集めた。



とちぎ花センターでの飾花

### < 今後の取組予定 >

- トルコギキョウにおいて、夏季のLED活用による短茎開花抑制技術の実証を行う。
- 花きの消費動向を捉えるため、消費者へのアンケート調査を行う。

## 群馬県花き振興地域協議会 (群馬県)

協議会構成団体:

群馬県、群馬県園芸協会、全国農業協同組合連合会群馬県本部、  
群馬県中央園芸株式会社、群馬県生花商業協同組合

### 戦略品目

切り花: キク類  
(スプレーギク、コギク)  
トルコギキョウ、  
宿根草類 (クジャクソウ)



### < 取組内容 >

#### 1 生産供給体制の強化

- ・キク栽培におけるLED照射が害虫防除及び生育開花に及ぼす影響
- ・トルコギキョウ栽培におけるLED照射がアザミウマ類防除及び生育開花に及ぼす影響
- ・中山間地のクジャクソウ栽培における簡易灌水装置の実証

#### 3 需要の拡大

- ・高校生を対象とした、県産花きを用いたフラワーアレンジメントパフォーマンス大会を開催。参加高校で希望者に向けた事前フラワーレッスンを実施。
- ・ブライダル業者と連携し、ウェディングフェアにて県産花きを活用するプラン提案を行った。
- ・ショッピングモール等にて、県産花きを展示。人気投票を行い産地認知度向上を図った。
- ・県産スプレーギク等で親子フラワーアレンジメント教室を開催。

### < 取組の成果 >

- ・緑色LED (ヤガ類)、赤色LED (アザミウマ類) でキクへの光照射を行ったところ、ヤガ類の寄生や被害を軽減した。ただし日長反応型の秋ギク系品種では、10日程度の開花遅延と、スプレーフォーメーションの乱れによる品質低下が確認された。
- ・トルコギキョウ温室内のアザミウマ類発生は、赤色LED照射の防虫灯区で少なかった。また開花が若干早く、品質低下は見られなかった。
- ・灌水区は、慣行区と比べて着花蕾数が増えボリュームが増加した。



簡易灌水装置タンク

- ・高校生大会では、9校14チームが参加しパフォーマンスを繰り広げ、約300名の観客が集まり盛況だった。
- ・ブライダル事業者2社 (高崎市、東京都) が、ウェディングフェアを行い、県産トルコギキョウを用いた飾花等の提案を行った。
- ・県産花き展示会を9月、12月、2月の合計3回実施した。アンケート調査を実施したところ、産地認知度は47%で、今後も継続して欲しい回答が90%超であった。
- ・親子フラワーアレンジ教室には26組58名の親子が参加し、県産花きに対して関心が高まった割合が100%となった。



県産花きの飾花状況

### < 今後の取組予定 >

- ・LED照射は、キク類では日長反応型の品種で開花遅延があったことから、現地適応性は低いと判断された。
- ・簡易灌水装置は、産地内の他の傾斜ほ場でも設置希望があるなど周辺農家の関心が高く、本年度の装置をモデルとして今後も普及推進を図る。
- ・高校生を対象にしたフラワーアレンジメントコンテストをコロナ禍においても開催できるように、個人戦・作品持ち込みの形で開催予定。

## さいたまの花普及促進協議会 (埼玉県)

協議会構成団体: 埼玉県、埼玉県花き園芸組合連合会、埼玉県植木生産組合連合会、全国農業協同組合連合会埼玉県本部、埼玉県花き園芸市場協会、埼玉県生花商組合連合会、(公社)日本フラワーデザイナー協会埼玉県支部、埼玉県インドアグリーン協会、(一社)日本ハンギングバスケット協会埼玉支部、埼玉県いけばな連合会、花キューピット埼玉支部

## 戦略品目

**花壇用苗物** (パンジー、ビオラ、プリムラ類、マーガレット、アンゲロニア、センニチコウ、ピンカ、ペゴニア、ペントス、メランポジウム、ランタナ、ポーチュラカ、コリウス、ケイトウ、カレックス、イボメア、ヒューケラ、ヒポエステス、ユーフォルビア)  
**鉢もの** (ポインセチア、プリンセチア、シクラメン、ファレノプシス、カランコエ、オリーブ、スカビオサ、宿根アリッサム)、**贈答用切り花** (ユリ、チューリップ、バラ、宿根アスター、カトレヤ、ファレノプシス、トルコギキョウ、モモ)、**植木・盆栽** (ビャクシン、マツ、マキ、ケヤキ、モミジ)

### < 取組内容 >

#### 1 生産供給体制の強化

- ・宿根アスターの難防除害虫であるアザミウマ類に対し生育期に省力化機械を利用した薬剤かん注処理を行い、薬剤散布の省力化を図る。
- ・トルコギキョウに、遮光資材を使用して高温期の光線量を低減させ、赤色LED、遠赤色LEDの終夜電照を行うことで、品質の向上を図る。
- ・イブキ盆栽に対しアグリメックの浸漬処理とかん注処理を行い、寄生するセンチュウの防除効果を検討する。また、4樹種(ゴヨウマツ、クロマツ、ケヤキ、イロハモミジ)について、薬剤処理時期による薬害の有無を調査する。

・生育初期の薬剤かん注処理は、アザミウマ類に対し被害の軽減効果が認められたが、その後も定期的に防除する必要があることが確認された。ネギ用カートMK型でのかん注処理は、作業姿勢が腰や腕への負担が少なく、省力化に有効であった。

・7月下旬から8月上旬定植では遮光率を55~60%程度にすることで品質の向上が認められた。7/30~8/12に定植、定植時から赤色LEDを終夜電照し、10/16から遠赤色LEDに切り替えて終夜電照を行うことで、軟弱茎が改善し、品質が向上した。

・アグリメック浸漬処理では、1回よりも2回のほうがセンチュウの密度指数が低くなった。かん注処理においては、薬剤浸漬と同程度の防除効果が認められた。また、4樹種においては6,9,10月のいずれも薬害は認められなかった。



ネギ用カートによる散布の様子



左: 試験区 右: 慣行区

#### 3 需要の拡大

- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に合わせ、聖火通過市町村と競技会場の周辺で県産花き、植木を展示し、埼玉県の花のPRを行う。
- ・小学生を対象に、戦略品目の県産花きを用いた花育教室を行い、若年層の新規需要の創出を目指す。
- ・医療従事者に感謝の気持ちを伝えるために、県内野球場にバラのフォトスポットを設置する。

・6市町村と競技会場周辺に18種類3,499点の県産花きと植木を展示し、県産花きをPRした。また併せて、安行四季彩マットや保水マットを利用して展示方法もPRした。

・9市町2,044名の児童が花育体験を行い、参加した児童家族へのアンケート結果では、花育体験後の48%の家庭で花き購入回数を増やしたいと回答を得た。

・「感謝」の花言葉のピンクのバラ1000本を用いたフォトスポットを設置した。



夏色花壇

### < 今後の取組予定 >

- ・赤色LED、遠赤色LED終夜電照について新たにLAユリでも実証を行い、夏季の品質向上が見込めるか検証する。
- ・花育教室や展示会を継続的に開催し、県産花きの需要拡大を図る。

## 千葉県花き振興協議会（千葉県）

協議会構成団体：（公社）千葉県園芸協会、千葉県花き園芸組合連合会、千葉県植木生産組合連合会、全国農業協同組合連合会千葉県本部、（株）第一花き柏支社、（一社）JFTD千葉支部、千葉県茶華道協会、千葉県

## 戦略品目

輸出用植木  
切り花 ストック、ひまわり

### < 取組内容 >

#### 1 生産供給体制の強化

- ・ イヌマキの根洗いによる輸出先国検疫条件への適合と植え付け後の活着促進のための技術実証  
大型イヌマキを用いた実証試験の実施

- ・ 大型イヌマキにおいても、根部保湿資材として従来の水苔に代わり安価なピートモスを用いることで根洗い後の樹勢衰退を抑制できること等、中型樹で有効な根洗い条件が大型樹でも適用できることを明らかにした。



土壌除去の根洗い



ピートモス根部充填

#### 3 需要の拡大

- ・ 学校・福祉施設等での花育体験推進  
幼稚園、保育園、小学校、高等学校等を対象に、花に触れる機会を通じて県産花きに対する興味や理解を深め、花のある暮らしの定着と「豊かな心」を育むことを目的に花育体験教室を開催する。

- ・ 参加校：のべ59校（幼稚園・小学校46、高校13）
- ・ 小学校の保護者向けアンケート結果によると、花育体験をした5割以上の児童（家庭）で花きの購入促進や関心の高まりに繋がったことがわかった。



花育体験教室



- ・ 県産の花植木を使った日本庭園及び生け花展示  
国内外に花植木の魅力を広く伝えるため、県産植木と伝統樹芸による日本庭園、伝統文化である生け花を展示する。

- ・ 日本の空の玄関である「成田」において展示をすることで幅広い利用者にPRができた。  
（日本語、英語、中国語の3か国語で案内表示）
- ・ 会場で行ったアンケート回答者の90%が日本庭園について理解が深まったと感じ、78%が花を身近に飾りたいと思ったと回答した。



日本庭園



生け花

### < 今後の取組予定 >

- ・ 輸出対策技術のさらなる発展を図るため、低コスト省力化・品質安定のための根洗い技術実証試験を行う。
- ・ 花きの需要拡大に向けた取組として、伝統的な花植木文化の紹介や、若い世代への花への関心を高める花育活動を進める。

## 神奈川県花き・植木振興地域協議会 (神奈川県)

協議会構成団体：(一社) 神奈川県園芸協会、神奈川県花き園芸組合連合会、神奈川県植木生産組合連合会、神奈川県花き卸売市場連合会、神奈川県生花小売商協同組合、日本ガーデンセンター共同機構神奈川県支部、(一社) 日本ハンギングバスケット協会神奈川県支部、神奈川県 (農業振興課、農業技術センター)

## 戦略品目

切り花：スイートピー、施設切花 (バラ、ストック、カーネーション、マム類等)  
鉢物類：洋らん鉢物 (ファレノプシス、シンビジウム、カトレア)、シクラメン  
花壇用苗もの類：夏秋冬花壇用苗物 (マリーゴールド、ニチニチソウ、パンジー等)  
花木類：観賞用植木 (ヤブソノキ、サルズベリ、クリスマスローズ等)

### < 取組内容 >

### < 取組の成果 >

#### 1 生産供給体制の強化

- シクラメン栽培における、赤色光を活用したアザミウマ類防除技術の実証試験を実施した。
- 温室内に赤色LED防虫灯を設置し、アザミウマ類の発生状況を調査した。

- 日の出前60分から日没後60分の照射により、設置区では未設置の対照区よりアザミウマ類の発生が6割減少した。
- シクラメンの生育に影響は見られなかった。



赤色LED防虫灯設置状況

#### 2 流通の効率化・高度化

- 過酷な環境である海岸地域で、夏場に展示可能な花壇用苗物の品目を調査した。
- ニチニチソウやマリーゴールド等を用いたハンギングバスケットを海岸付近の公園に設置した。

- 設置前日に台風10号が接近した影響で、設置後に強風が吹き、多くの品目で鑑賞性を失ったが、ポーチユラカは鑑賞性を維持した。



ハンギングバスケット設置状況

#### 3 需要の拡大

- 県産花きのPRと利用促進のため、多くの人の往来が見込まれる住宅展示場や駅前の通りで、県産の花壇用苗物を用いたハンギングバスケットを展示した。

- 展示を見た人にアンケート調査を実施した結果、展示を通じて今後生活に花を取り入れたいと回答した人が約85%となり、県産花きの利用促進を図ることができた。



ハンギングバスケット設置状況

### < 今後の取組予定 >

- 赤色光を活用したアザミウマ類防除技術について、新たにバラやコギク等でも実証を行い、同様の害虫防除効果が見込めるかを検証する。
- 夏場に展示可能な花壇用苗物について、関係団体に情報提供を行う。
- ハンギングバスケットの展示について、令和4年度も別の場所でも実施する。

## 山梨県花き振興協議会 (山梨県)

協議会構成団体：山梨県花き園芸組合連合会、富士北麓花き生産協議会、全国農業協同組合連合会山梨県本部、山梨県園芸市場、山梨県生花商業協同組合、日本フラワーデザイナー協会山梨県本部、(株)ハイジの村、山梨県総合農業技術センター、山梨県食糧花き水産課、山梨県販売・輸出支援課

### 戦略品目

鉢もの：シンビジウム  
花壇用苗もの：ナデシコ



### < 取組内容 >

#### 1 生産供給体制の強化

- シンビジウム苗にLED照射を行い、根茎発達等生育に与える影響を検討する。  
(山梨県内3箇所 照射時期：9月～)

- ナデシコの品種特性の比較や優良品種の選定、飾花用苗生産技術(新たな出荷規格の検討等)の実証を行う。

### < 取組の成果 >

- LED照射による根茎発達について品種間差が確認され、根茎発達が確認された品種では製品率向上につながる可能性が示唆された。(効果が確認された品種は延べ32品種中14品種)

- ナデシコについて、2号～3.5号ロングまでの8種類のポットにより育苗した結果、いずれの区においても順調に生育し、栽培への応用が可能と考えられた。

- 通常の黒プランターと白色底面給水プランターでは、底面給水プランターにおいて越冬後の生存株率が高かった。



シンビジウム苗へのLED照射

#### 3 需要の拡大

- 将来の実需者となりうる小中学生を対象に、戦略品目の県産花きを用いた花育教室を行い、若年層の新規需要の創出を目指す。(県内9校、10～12月実施)

- 「やまなし花フェスタ2021」においてシンビジウムの品種展示会、県産花きを使用したオブジェの装飾展示を行い、県産花きの魅力を発信する。(開催日：12月2日～5日、開催場所：イオンモール甲府昭和店)

- 小中学校9校の計393名の児童が花育体験を行った。参加した児童の保護者を対象に行ったアンケート調査の結果、花育体験後の保護者全体の鉢花・切り花等購入数量は2.6倍に増加した。
- やまなし花フェスタ2021を開催し、設置したオブジェにはシンビジウムを中心に県オリジナル品種のピラミッドアジサイ等を使用し、多くの県民にPRを行った。



小中学生を対象とした花育教室

### < 今後の取組予定 >

- 実需者ニーズに沿った品目について実証を継続し、研修会等を通して生産者への普及を図る。
- 県内の小学校等において県産花きを使用した花育・園芸体験教室を開催し、児童の花への理解・関心を高めるよう取組を継続する。

## 長野県花きイノベーション推進協議会 (長野県)

協議会構成団体：長野県農政部、全国農業協同組合連合会長野県本部、  
南信ハウスカーネーション組合、長野県鉢花園芸組合、日本ばら切花協会長野県支部、  
長野県洋らん組合、長野県生花商業協同組合、長野県原種センター、松本花市場

### 戦略品目

切り花：トルコギキョウ  
アルストロメリア  
カーネーション



### < 取組内容 >

#### 1 生産供給体制の強化

- カーネーションにおける夏期の高温による品質低下、切り花数量の減少を改善するため、簡易設置型パッドアンドファンによる暑熱対策試験を実施した。
- トルコギキョウの立枯れ性病害対策のため、低濃度エタノール、米ぬかを用いた土壌還元消毒を実施し、防除効果の確認、最適な土壌条件等を検討した。

#### 3-1 需要の拡大 (花育)

- 若年層の新規需要の創出を目指し、小中学生を対象に戦略品目の県産花きを用いた花育教室を行った。
- 新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、生産現場、アレンジメント方法を紹介する動画を提供し、リモート形式での花育活動を実施した。

#### 3-2 需要の拡大 (PR展示)

- 県内一般消費者に対して、県産花きの魅力を発信するため、夏期品目の一斉展示、花飾りデモンストレーション、生花商によるデザインコンテスト等を一堂に開催する信州フラワーサマーフェスティバルを長野駅で実施した。
- 県内主要駅 (長野駅、松本駅) や県立大学卒業式において戦略品目を用いたPR展示を実施した。

### < 取組の成果 >

- パッドアンドファンを用いることで、高温時の株付近の温度を1℃以上下げることができた。品質や切り花数量に大きな差はなく、装置からの距離が長いほど、効果が小さくなる傾向が見られたことから、送風能力の向上が今後の課題である。
- いずれの処理でも、土壌還元消毒後、病原菌 (フザリウム菌) の密度が低下し、防除効果を確認することができた。透水性の高いほ場では、還元処理の際水量を増やす、踏圧を十分に行う等の対応が必要であることが示された。



土壌還元消毒処理時のほ場

- 県内の小学校28校、4,654名の児童が花育体験を行った。
- 参加した児童へのアンケート結果によると、15%の家庭で切り花の購入頻度が増加した。また、花育教室を実施した会場の近隣の店舗へのアンケートによると、教室実施後、59%の店舗で売り上げが増加した。



花育教室

- 人通りの多い場所で継続的な花展示を行ったことにより一般消費者への訴求効果は高く、家庭向け消費の増加に繋がり、近隣店舗の来客数及び販売額が平年より6%高くなった。
- 県立大学卒業式での展示は、多くのメディアに取り上げられ、一般消費者へのPR効果が高いものであった。



長野駅での花展示



### < 今後の取組予定 >

- カーネーションの暑熱対策として、細霧冷房を用いた実証試験を行う。
- 花育体験については、購入量増加が見込めることから、継続して開催していく。
- 花文化の定着、花のある暮らしの推進のため、若年層をターゲットに消費拡大プロモーションを行っていく。



## ふじのくに花の都しずおか推進協議会（静岡県）

### 協議会構成団体：

静岡県花卉園芸組合連合会、静岡県鉢物生産振興会、静岡県花き市場連合会、花咲しずおかフラワーネットワーク会議、静岡県花の会連合会、静岡県花き新品種育成研究会、静岡県華道連盟、静岡県

### 戦略品目

切り花：バラ、トルコギキョウ

切り枝：ユーカリ、アカシア、コバナズイナ、トキワガマズミ

鉢物：マーガレット



## < 取組内容 >

### 1 生産供給体制の強化

- 日照量の少ない冬季における高品質なバラ切り花の生産性向上を目的に、11月～3月に赤や白を中心としたLEDを設置し、日没6時間後～日没までの18時間照射が切花に与える影響を調査した。
- 鉢物マーガレットの年内出荷増加を目的に、10月以降に赤色LEDを設置し、日没後4時間と日の出前4時間の照射による開花促進への影響を調査した。

### 3 需要の拡大

- 小学生を対象にした、県産花きを用いた寄せ植えによる花育体験教室を実施し、花きに親しむ習慣の定着化と消費拡大を図った。
- 高校生・専門学校生・大学生等を対象に、戦略品目を含み県産花きを用いたフラワーデザインコンテスト（フラワーアレンジ部門とミニガーデン部門の2部門）を実施した。

## < 取組の成果 >

- 供試したバラ2品種において、1日18時間のLED照射により冬季の切花品質（切花長、切花重、莖径等）が増大し、上位階級の割合が増加した。加えて、採花本数も3割以上増加した。
- マーガレットは、赤色LED照射により開花が2週間早まり年内出荷量が増加した。また、花径が大きくなる傾向がみられた。
- 実証成果等は、マニュアルにより県内花き生産者に広く公開し、技術の普及を図った。



LED補光によるバラ実証試験の様子

- 生産者が講師となり、児童32名に対して花育体験教室を実施した。参加児童の家庭へのアンケート結果から、体験後の79%が自宅でも花を植えたい、71%が花をプレゼントしたいと回答した。
- フラワーアレンジ部門に76名、ミニガーデン部門に19チームが参加した。コンテストに参加した生徒へのアンケート結果から、参加した70%の生徒が花き購入回数を増やしたいと回答した。



フラワーデザインコンテストの様子

## < 今後の取組予定 >

- バラにおけるLED補光について、春季～夏季における塗布剤の利用を組合わせた施設内の光環境制御による、切花品質および収量への影響を調査する。
- また、ガーベラにおいて赤色LED照射による切花品質および採花本数への影響を調査する。
- 花育の実施や講習会の開催に継続して取組み、県産花きの需要拡大を図る。